

農業



平成31年 1月号
会誌 No. 1647

目次

巻頭言

新年を迎えて……………吉田 岳志 3

農事功績者表彰

平成30年度第102回農事功績者表彰式…………… 4

式典・受章祝賀パーティー・式辞

総裁秋篠宮殿下のお言葉

祝辞・謝辞・受章祝賀パーティーにおける祝辞

平成30年度第102回農事功績者氏名…………… 12

農事功労者（国内，国外）

農業改良普及功労者・農業技術開発功労者

本会功労者

論壇

石と棍棒と食料……………難波 成任 18

秋期中央農事講演会

水田農業の課題と展望・期待……………吉田 忠則 20

農事功績者座談会

水稲・麦・大豆等大規模法人経営……………和氣 勝英 37

現地指導者のコメント……………大和田輝昌 46

意見交換…………… 47

農業・農村の現場から

東日本大震災復興に向け研究成果を活かした地域づくり（2）

－震災からの復興に向けた宮城県内における

ブドウ「シャインマスカット」の実証研究と現地での取組－…大沼 欣生 57
柴田 昌人

世界の農業は今

フランス酪農の生産コストについて……………須田 文明 61

私の経営と志

野菜主体の経営を目指す……………大塚勝太郎 65

東京農業大学収穫祭から（第1回）

SDGs と私たち－農でつながる世界の輪……………熱帯作物学研究室 67

農政情報

…………… 72

大日本農会だより…………… 73

ミニ情報

新規就農者の推移（就農形態別）…………… 36

水田作経営の農業経営収支（平成29年）…………… 56

表紙写真説明

雪の下で育つ『小松イ草』（石川県小松市）

小松はイグサ栽培の北限の産地。イグサは九州など温暖な地域では11月～12月に植え付けられますが、当地では霊峰白山が初冠雪を迎える10月中旬に植えられ、冬を越します。この苗は時には何十cmもの雪に覆われながらじっと雪解けを待ち続けます。他の産地よりも1ヵ月ほど早く田植えを行ったイグサの苗は、この北陸特有の厳しい寒さに耐え、春先から再び生長をはじめ、梅雨が明ける頃には150cm以上の長さの『小松イ草』へと生長します。

昭和30年代には、小松のイグサ生産農家は1,400軒、栽培面積は300haと生産のピークを迎え、小松が誇る伝統産業へと成長しました。しかし、生活様式の変化、価格の安い輸入品の増加や大雪による収量低下など、いくつもの要因が重なり生産農家は減少し、平成23年にはついに1軒になりました。イグサ生産農家が1軒になってから今年で8年目を迎えますが、これからも小松の伝統の『小松イ草』を守り続けていきます。

（石川県小松市 宮本農産代表 宮本健一）